

令和6年3月19日設置

温泉施設管理運営等調査特別委員会
調査報告書（最終）

温泉施設管理運営等調査特別委員会

委員長	本田	忠
副委員長	後藤	建一
委員	賀籠六	めぐみ
委員	池見	傑
委員	熊野	忠政
委員	工藤	忠孝
委員	阿南	智博
委員	本郷	敦子
委員	佐藤	市蔵
委員	上島	弘二
委員	鷺司	英彰
委員	山村	英治
委員	阿部	雅彦
委員	渡辺	克己

1. はじめに

令和6年3月19日、令和6年第1回定例会において、議長を除く14人の委員で構成される温泉施設管理運営等調査特別委員会が設置され、市営温泉施設の管理運営等に関する調査を目的として活動してまいりました。温泉施設は、市民の健康増進や観光振興に重要な役割を果たしており、その適切な運営は地域の活性化に直結します。本報告書は、これまでの調査結果をまとめ、今後の方向性を示すものとして会議規則第103条の規定により報告いたします。

2. 調査方法

本委員会は、以下の方法で調査を実施しました。

- (1) 7回にわたる特別委員会での議論と情報共有
- (2) 施設担当課からの詳細な説明聴取
- (3) 利用者数、収支状況、施設の状態等に関するデータ収集と分析
- (4) 対象施設（竹田温泉花水月、荻の里温泉、長湯温泉療養文化館御前湯）の現地調査

3. 調査結果

(1) 竹田温泉花水月

- ・ 施設の状態：天井の水漏れ、壁面の劣化、タイルの剥離が確認された。
- ・ 安全性：階段や浴場の構造に改善の余地があり、安全誘導サインが不足している。
- ・ 施設規模：現在の利用状況と比較して、浴槽や施設全体の規模が過大である。
- ・ 経営状況：年間約3,000万円の赤字が継続しており、抜本的な経営改善が必要な状況である。

(2) 荻の里温泉

- ・ 施設の状態：全体的に清潔感が保たれているが、屋根の老朽化が進行している。
- ・ 設備効率：新規導入したボイラーにより、燃料使用量が大きく削減された。
- ・ 施設構造：脱衣室の面積が過大であり、効率的な空間利用の余地がある。
- ・ 宿泊施設：洋室ツインの需要が高く、増設の可能性が示唆された。

(3) 長湯温泉療養文化館御前湯

- ・施設の状態：日常的なメンテナンスは適切に行われているが、更衣室の棚や天井に経年劣化が見られる。
- ・安全対策：階段、テラス、露天風呂において、安全性向上のための改善点が確認された。
- ・利用者特性：市外からの利用者が多く、観光施設としての側面が強い。

全施設共通の調査結果：

- ・経営状況：いずれの施設も赤字経営が継続しており、収支改善が急務である。
- ・広報活動：インターネットやSNSを活用した情報発信が不十分であり、効果的な広報戦略が欠如している。
- ・差別化：各施設の地域特性や独自の魅力を活かした運営戦略が不足している。
- ・設備更新：各施設で設備の老朽化が進んでおり、計画的な更新が必要である。

4. 問題点の指摘

(1) 施設老朽化と計画的修繕の必要性

各施設で老朽化進行中であり、大規模改修が不可避である。

(2) 安全対策の強化

階段すべり止め、安全誘導不足の改善が急務である。

(3) 施設規模と利用状況のミスマッチ

特に花水月では過剰な規模の見直しが必須である。

(4) 経営改善と持続可能な運営の確立

各施設赤字経営継続中で、抜本的改善が必要である。

(5) 効果的な広報戦略の不足

インターネット・SNSを活用した情報発信が不足している。

(6) 地域特性を活かした差別化戦略が必要

各施設独自の魅力づくりが不足している。

5. 今後の方向性

本委員会は、調査結果を踏まえ以下の方向性を示します。

(1) 計画的な施設整備と安全対策強化

老朽化の状況を把握し、優先順位を付けた修繕計画を策定すること。安全面で早急な対応が必要な箇所（階段のすべり止め等）を改善すること。各施設の設備更新（ポンプ、ボイラー等）に対し計画的な備えを行い、費用的負担を最小限に抑えること。大規模修繕については、公共施設整備計画に沿った安定的な予算確保に努めること。

(2) 施設規模最適化と運営方式の見直し

竹田温泉花水月については適切な規模への見直しを検討し、柔軟な運営方式を採用すること。「花水月あり方検討委員会」の答申を尊重しつつ、直営、指定管理、売却等を含めた運営方針を慎重に検討すること。長湯温泉療養文化館御前湯についても、直営以外の運営方法を検討すること。

(3) 経営改善策の具体化

各施設の入浴料金の見直しや値上げを検討し、収益向上を図ること。付帯サービス（宿泊、レストラン、売店等）の充実による収益向上策を検討すること。特に荻の里温泉では、宿泊やグラウンドゴルフ、レストラン、売店の取り組みを充実させ、利益を上げること。竹田温泉花水月では、スポーツジムや観劇など民間事業との連携による集客を検討すること。

(4) 地域特性を活かした差別化戦略展開

各施設の立地特徴を活かし、地域観光拠点機能強化を図ること。長湯温泉療養文化館御前湯では、市外からの利用者を意識したサービス提供を行うこと。

(5) 効果的な広報戦略の構築

インターネット・SNSを活用した情報発信強化を行うこと。メディアを活用した広報活動を展開し、地域住民や観光客への認知度向上と集客につなげること。

(6) 環境保護と持続可能性追求

環境に配慮した省エネ設備導入や再生可能エネルギーの活用を検討すること。

(7)利用者サービスの向上

案内表示の改善やバリアフリーの推進を通じて利用者目線でのサービス向上を図り、売店の品ぞろえや商品管理に工夫を凝らすこと。また、利用者の安全を最優先に考え、設備の安全対策を強化し、定期的な救急救命講習や研修を実施してスタッフの安全管理能力を向上させること。これにより、施設管理者としての安全対策の責務を果たし、安心して利用できる環境を提供すること。

(8)進捗確認と継続的改善

定期的に状況をモニタリングし、柔軟に対応策を調整することで継続的な改善を図ること。特に竹田温泉花水月については、「あり方検討委員会」の進捗を注視し、適切な対応を取ること。

6. おわりに

本委員会は、これらの方向性に基づいた取組が実行されることで、市営温泉施設の持続的な運営が実現し、市民の健康増進や地域活性化に寄与することを期待しております。今後も執行部との連携を密にし、各施設の状況変化や「花水月あり方検討委員会」の進捗を確認しながら柔軟に対応してまいります。

以上、温泉施設管理運営等調査特別委員会の調査報告といたします。

令和6年12月11日

温泉施設管理運営等調査特別委員会
委員長 本田 忠

竹田市議会議長 佐藤 美樹 様